

利用・用途・応用分野

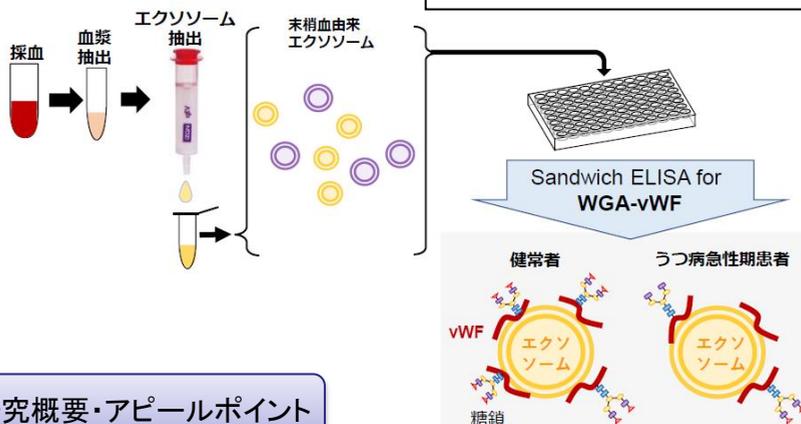
初診時のスクリーニング検査、気分障害の鑑別診断補助、うつ病の早期診断・介入へのサポート

目的・課題

うつ病を含む気分障害は患者数が多く、社会問題となっている。現状では、うつ状態を客観的判断できず、治療による寛解の状態を客観的に評価できない。主観的判断要素が削除できず客観的なデータに基づく評価、診断方法が求められている。定量性のあるバイオマーカーは、有力なツールではあるが、臨床で有用なものはないため、新たなうつ病マーカーを見つけ、判別を補助する方法やうつ病診断キットを提供することを課題とする。

解決ポイント

- ◆うつ病のバイオマーカーの探索を検討した中で末梢血から採血されたエクソソーム上の糖タンパク質に着目した。
- ◆うつ病患者末梢血由来血漿中のエクソソーム上の糖タンパク質であるフォンヴィレブランド因子(vWF)の量を測定・評価することにより、うつ病や罹患状態や治療による寛解状態の判断が可能であることを見出した。
- ◆vWFに結合したN型糖鎖の存在量が低下することでうつ病が急性期にあることやその存在量が回復することで、うつ病が寛解期に至ったという診断ができる。



研究概要・アピールポイント

- ◆うつ病を客観的に判別することが可能となる。うつ病患者の経過観察において、寛解期になったか否かを判別することが可能となる。
- ◆うつ病患者末梢血由来血漿中のエクソソーム上の糖タンパク質であるvWF因子に結合するN型糖鎖を測定、評価することで医師の経験や主観の要素を排除した。客観的データとして正確な診断ができるとともに治療効果についても正確に評価できる。

◆ お問合せ先 ◆

有限会社山口ティエール・エル・オー TEL: 0836-22-9768 E-mail:tlojim@yamaguchi-u.ac.jp